

五日間の「介護等体験」を始める前は「どうして、子どもを相手にする仕事なのに社会福祉施設で実習を行わなければならないのか。」と疑問に思っていました。

また、“介護”という専門知識が全くない私が実習先へ行って迷惑にならないかと不安にも感じました。しかし、この五日間は本当に充実したものであり、自分自身も大きく成長したと思います。

この介護等体験では、多くの利用者の方とたくさんのお話をすることができました。利用者の方々は、私が話しかけると喜んでお話をしてくれましたし、たくさんのことを教えてくれました。特に私と共通する話題（歴史、和歌山、食べものの話など）になると話が盛り上がり、時間が忘れるほどでした。利用者の方とは世代が全く違くので、話が合うのか心配でしたが、このように共通の話題を見つけることは、世代を超えて楽しい話が出るきっかけになると感じました。

私が実習を行ったところは、デイサービスだったので、日によって利用者の方が違いました。つまり、この五日間は、毎日が出会い、別れの繰り返しだったように思います。毎日毎日、お別れをするとき利用者の方々に「今日は一日ありがとうございます。もう会うことないかも知れないけど、楽しかった。頑張ってるね。」と言ってくださって本当にうれしかったです。“一期一会”の大切さを身に染みて感じた五日間でした。

このように、この五日間は本当に充実し、学び、楽しむことができたものでした。日に日に行くのが楽しみになっていました。しかし、一方で職員の方たちは忙しそうで、私たちが絶対にするのでできない大変な仕事（お風呂に入れてあげるなど）もされていて、介護の仕事は本当に難しい仕事だなと感じました。ですが、職員の方は利用者の方々に接する時はいつも笑顔で、嫌な顔もせず、いきいきと仕事をされているように見え、まさに“プロ”だなと感じました。

この五日間、多くの利用者との交流を通して、自分のコミュニケーション能力が高まった。また、世代を超えて様々な人がいるという「人間理解」も拡大したように思います。これらは、教員を目指す私に必要なものであり、その部分を培うことができ、この「介護体験」は、私にとって非常に意味のあるものになりました。

以上